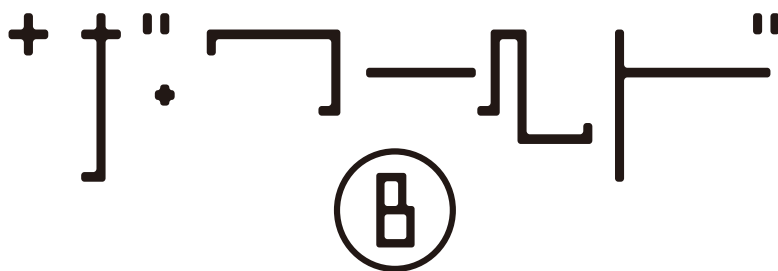


## 大橋可也 & ダンサーズ



### インスタレーション／トーク

2014.3.29 [土], 3.30 [日]

牡丹町商店街会館

〈展示〉12:00-20:00

〈トーク〉18:00-19:30

トーク出演＝梅山いつき (演劇学者), 大橋可也, 長島確

リサーチとダンスパフォーマンスが並行して（／交互に）進められるこのプロジェクトの特質をよく伝えるために、ダンスの上演とは別に、写真や音響、映像、トークを含む多角的な展示の場を設けます。まちなかでふと吸血鬼のけはいに気づき、そばだてられる耳、こらされる目。それらが捉えるのは吸血鬼の姿ばかりでなく、江戸開闢以来形づくられてきた土地の記憶であり、これから2020年へ向けてさらに変貌していく土地の姿でもあるでしょう。

構成——大橋可也

ドラマトゥルク——長島確

リサーチャー……加藤雄大、小林あずさ、坂上翔子、浦井智仁

写真……GO (go-photograph.com)

音・プログラミング……浦井智仁

造本・映像……石塚俊

空間演出協力……原口佳子 (モリブデン)、ROCCA WORKS

コーディネート……及位友美 (voice)

このプロジェクトについて

「ザ・ワールド」は大橋可也&ダンサーズ初の、リサーチをベースにしたプロジェクトである。このプロジェクトは、ある土地（江東区）をリサーチし、それをもとにダンスをつくるプロセスを重ねていく、おそらく息の長いものになるはずだ。

リサーチをもとに、踊る？ 大橋が依拠する暗黒舞踏には「舞踏譜」という手法があり、テキストを身体への指示書として読み解きながら振付を行う。この考え方を応用すれば、どのようなテキストでも踊ることができる。地元の人のおしゃべりでも、リサーチの報告書でも、地図でさえも。

なぜ吸血鬼なのか？ 吸血鬼の物語には二系統あり、ドラキュラのようなスーパーモンスターが超常的な力を振るうタイプと、もうひとつ、種族としての吸血鬼がひっそりと移住してくるタイプである。後者の吸血鬼は、ひそかにまちに溶け込まなければならぬ。協力者を見つけなければならぬ。見た目よく、礼儀正しくないといけない（ゾンビと違って吸血鬼は招待なしには他人の家に入れないのだ）。こうした努力はすべて、血を吸うためである。異物としてのアーティストがまちなかに出ていく際の問題の一端がここにある。

このプロジェクトの吸血鬼は、血のかわりに土地の記憶を吸う。そしてまちなかに点々と、ダンスを残していくのだ。

## プロフィール

〈トークゲスト〉

**梅山いつき**（うめやまいつき）

演劇学者。博士（文学）。60年代演劇、野外演劇集団を研究対象とする。時に自らテント芝居に身を投じることも。水族館劇場の制作として都内最大規模のテント芝居に携わる。

主な著書：『アングラ演劇論』（作品社、AICT演劇評論賞受賞）、『60年代演劇再考』（共編著、水声社）。

〈リサーチャー〉

**加藤雄大**（かとうゆうだい）

東京都生まれ。立教大学映像身体学科在学中。大学では主に劇場映画の制作を学ぶとともに、演劇や思想なども勉強中。3月に立教大学映像身体学科卒業制作展にて卒業制作を上映。舞台芸術に携わるのは今回が初めて。

**小林あずさ**（こばやしあずさ）

1989年生まれ、新潟市育ち。2010年からパフォーマンスやアートプロジェクトの企画・制作として活動を始める。主な参加プロジェクトは、『やなぎみわ演劇プロジェクト』『ぐるぐるヤミープロジェクト』。東京藝術大学大学院在籍。

**坂上翔子**（さかうえしよこ）

1988年、新潟生まれ。日本大学理工学部建築学科卒。会社の退職をきっかけに2012年より住み開きスペース『jessica』をはじめ、現在はとしまアートステーション構想に勤務しながらモラトリアム期間を過ごしている。

**涌井智仁**（わくいともひと）

1990年、新潟県旧川西町生まれ。音楽家。美術家集団『天才ハイスクール!!!!』のメンバーとしても活動中。ピチピチした音楽をいつも作ってます！

〈スタッフ〉

**GO**

写真家。2004年より大橋可也&ダンサーズの作品及び宣材写真等を担当。2013年2月大橋可也&ダンサーズ写真集「Books, Phantoms」刊行。Web: go-photograph.com

**石塚俊**（いしづかしゅん）

早稲田大学にて演劇と映像学を専攻。グラフィックデザインを軸に、音楽や舞台作品の現場で印刷物や映像演出などの視覚表現を行う。日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）会員。

**長島確**（ながしまかく）

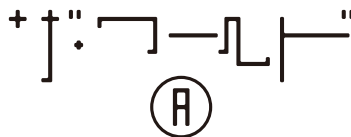
日本におけるドラマトゥルクの草分けとして、コンセプトの立案から上演テキストの編集・構成まで、身体や声とともにあることばを幅広く扱う。ベケットやサラ・ケイン、ヨン・フォッセらの戯曲の翻訳のほか、阿部初美、中野成樹をはじめさまざまな演出家や劇団の作品に参加。また『墨田区／豊島区／三宅島／淡路島在住アトレウス家』『長島確のつくりかた研究所』等のアートプロジェクトも手がける。ミクストメディア・プロダクト／中野成樹＋フランケンズ所属。

〈カンパニー〉

**大橋可也&ダンサーズ**（おおはしかくやあんどだんさーず）

1999年結成。ハードコアダンスを提唱、暗黒舞踏の方法論を基に現代社会における身体の在りかたを追究しているダンスカンパニー。2008年に発表した『帝国、エアリアル』では関連するフリーペーパーを制作、配布するなど、ダンスの枠組みにとどまらない活動をおこなっている。2013年2月、写真家GO撮影による初の写真集「Books, Phantoms」を発売。2013年7月には、日本SF界を代表する作家、飛浩隆による長編小説『グラン・ヴァカンス』をダンス作品化、発表した。船橋陽、大谷能生、空間現代ら先鋭的なミュージシャンとの共同作業も多くおこなっている。

## 大橋可也 & ダンサーズ



ダンスパフォーマンス

2014.3.8 [土], 3.9 [日] **【終了】**

会場：森下スタジオ（Cスタジオ）

上演時間：70分

振付・構成・演出——大橋可也

ドラマトゥルク——長島確

出演——古舘奈津子、とまるながこ、阿部遥、  
山本晴歌、伊藤雅子、川瀬雅、長屋耕太、  
麻上しおり、仲子、大隈智巳

音楽・音響——涌井智仁

照明——筆谷亮也

舞台監督——原口佳子（モリブデン）

衣装——ROCCA WORKS

主催：一般社団法人大橋可也&ダンサーズ

助成：芸術文化振興基金 

協力：公益財団法人セゾン文化財団